

平成24年9月の解説（週間天気予報）

【9月の天候状況】

上旬は、日本の東海上で太平洋高気圧の勢力が強く、北・東日本では晴れて暑い日が多くなりました。一方、上空の寒気の影響や南からの湿った空気の影響により、西日本を中心に雲が広がりやすく、大気の状態が不安定となって所々で雷雨となりました。また、旬の中頃と終わりには前線の影響により、北日本から西日本にかけての日本海側で雨の降った日がありました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

中旬は、上旬に続き、日本の東海上で太平洋高気圧の勢力が強く、北・東日本では晴れて暑い日が多くなりました。旬の前半は、西日本と沖縄・奄美でも高気圧に覆われて晴れた所が多くなりました。15日から17日にかけては、台風第16号の影響により、沖縄・奄美から西日本太平洋側にかけて大雨となり、その後は台風から変わった温帯低気圧や日本海の前線に向かって南から湿った空気が流れ込んだため、18日は西日本中心に、旬の終わりにかけては、北・東日本で大気の状態が不安定となりました。

下旬は、東・西日本では天気は数日の周期で変わり、北日本と沖縄・奄美では、気圧の谷や湿った空気の影響により曇りや雨の日が多くなりました。22日から24日にかけては、本州の南岸の前線上を低気圧が東進した影響により、北日本から西日本にかけての太平洋側を中心に曇りや雨となり、東日本の太平洋側では大雨となった所がありました。また、旬の終わりは台風第17号の影響により、全国各地で大雨や暴風となり、高波や高潮の発生した所がありました。

月平均気温は、北・東日本でかなり高く、西日本では高くなりました。一方、沖縄・奄美では低くなりました。月降水量は、東日本の日本海側、沖縄・奄美で多くなりました。北日本の日本海側、東日本の太平洋側、西日本では平年並で、北日本の太平洋側で少なくなりました。月間日照時間は、東日本でかなり多く、北日本の日本海側、西日本の太平洋側で多くなりました。北日本の太平洋側、西日本の日本海側は平年並で、沖縄・奄美では少なくなりました。

【9月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、全国平均では例年値^{（注）}より3ポイント低い63%でした。地方毎の適中率は、北日本、関東甲信地方、北陸地方及び四国地方で5～8ポイント低くなりました。

最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、北海道地方で例年値より0.4大きくなりましたが、東海地方、近畿地方及び中国地方では例年値より0.4～0.7小さくなりました。全国平均では例年値より0.1小さい2.3になりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、例年値程度か例年値より小さく、東北地方、東日本及び近畿地方で例年値より0.4～0.6小さくなりました。全国平均では例年値より0.3小さい1.7になりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【11月の週間天気予報の利用にあたって】

晩秋から冬にかけては日本の西に高気圧、東には低気圧が位置する西高東低の冬型の気圧配置になることが多くなります。冬型の気圧配置は低気圧が発達しながら日本付近を通過した後に現れやすく、冷たい北よりの風が吹いて気温が急激に下がり、日本海側の地方では雨が降り、気温によっては雪やみぞれとなり、太平洋側の地方では晴れるところが多くなります。週間天気予報で雪の降る日や気温が下がる予想が発表されている場合は、雪への備えや健康管理などに注意して下さい。